

イ千流

大島町立さくら小学校
3 学年 学年通信
令和7年 4/22 No. 7
3年担任 伊藤 貴之

各教科から知的好奇心を育てる

3年生になり、新しい教科の学習は始まりました。理科、社会、総合的な学習の時間です。その中で先日は理科の授業の一時間目を行いました。まずは、理科の学習の流れの確認です。
◇課題→予想→実験→結果→(考察)。この流れが理科の学習の思考の流れとなります。それぞれに目的とねらいがあります。その中でも、3年生で大切にしていきたいのは「予想」と「結果のまとめ方」です。予想は、今までの知識や想像力を生かして考え、結果は実験したことをどの表現方法でまとめるかがポイントとなってきます。

一回目の授業として、今回は「電気の通り道」の授業の導入を先取りしてやってきました。

「さて、理科室に来ましたが、いろいろなものがありますね。今日はこの豆電球と電池を使った実験をしてみましょう!」「いえーい!」と子どもたち。「電池の両端にこの豆電球から出ている導線をくっ付けると・・・?」「うわー。光った!」子どもたちの頭の上にもピカッと電気が付いたように見えました。「これは一つの回路になっているから豆電球が光るんだね。じゃあ、この回路の間に何か違うものを挟んだ時、豆電球は光るかな?例えば、この鉄の棒はどうか?」「光った!」「なるほど、じゃあこの紙は?」「光らない!」すると小林くんが「鉄の棒は電気を通すけど、紙は通さないんじゃない。」とつぶやきました。いいつぶやきですね。「どう?みんなもやってみる??」子どもたちは当然「やりたい!!」と。「では、やってみよう!」ということで実験を行いました。このように理科では、あくまでも課題は先生から与えられることがほとんどです。でもそこから「これは電気を通す」や「これは紙に似ているから豆電球はつかない。」など予想が始まり、「いろいろ試したい!」という知的好奇心は生まれます。そこから発展していくと「なぜ電気を通すものと電気を通さないものがあるのかな。」「なにか共通点はないかな。」などより深い知的好奇心が生まれてきます。すでに鈴木君や斎藤君は「金属は電気を通すと思う!」と話しながら実験をしていました。

これは理科の一例ですが、様々な教科の特質を生かしながら子どもたちの「たい」を伸ばしていきたいと思えます。

